



第8回ふれあい人権講座

「在日朝鮮人問題とは なにか?」

講師 伊田哲朗さん

(元兵庫県立高校教諭・下石見)

兵庫県立高校でお勤めの間に在日朝鮮人の生徒たちに出会ってきた講師から「在日朝鮮人問題」のお話を聴きました。

明治維新後の日本は東アジアでの勢力拡大を目指し、朝鮮半島に進出しました。それ以降、太平洋戦争で敗戦するまで様々な理由で朝鮮人の方々が日本に住んでいました。「三国人」などと差別を受けながら。戦後、日本政府は朝鮮人に日本国籍を選ぶ自由を与えま

せんでした。朝鮮への帰国が進みましたが、朝鮮戦争が勃発し半島は北朝鮮と韓国に分断され、帰国は困難になりました。その後、日本に残った方々が「在日朝鮮人」として暮らしておられます。朝鮮人の方々への偏見や差別は続いています。朝鮮人へのヘイトスピーチ(憎悪演説)、誹謗中傷を繰り返すデモなどは差別の根深さの象徴です。講師が出会った生徒たちも、被差別の中で育ち、朝鮮人であることを隠していることが多かったそうです。その子たちが、卒業式で朝鮮人としての本名を名乗ったり、朝鮮の民族衣装で舞踊を披露してくれたことは、講師にとつとても嬉しい出来事だったそうです。

在日朝鮮人の著名な詩人キムシジョンさんは「朝鮮と日本のどちらでも大切しながら生きる」ことが「在日朝鮮人という生き方」とし、日本人と在日朝鮮人がお互いに壁を乗り越える努力を続けることを訴えておられます。

国家間の諍いあそびも大きな壁になっていますが、同じ土地に暮らす者として敬意を持ち、お互いを認め合ひましょう。

ミニ人権コラム

「お花畑の住人」のこと

戦争が始まりました。以前は「非武装で平和を」と主張する人たちが甘い夢を見る「お花畑の住人」として嘲笑されていましたが、今は他にも多くの方々が「お花畑」に住んでいることが分かりました。「核の抑止力」「核の平和利用」「民間人が死なない暴行されない戦争」「経済制裁による休戦」：2月24日以降、これらがとてもお気楽な夢物語であることが証明されました。私は、始まってしまった戦争の中では倫理・規律は存在しないと考えています。平時にどれほど人権尊重が叫ばれていようが、自らが殺される恐怖の前に倫理を保って死んでいける人が歴史上何人いたのでしょうか？ひたすらの外交努力や日々の生命や人権尊重の飽き飽きするほどの学習の継続によって、とにかく戦争は始まる前に止めなければならぬと思います。

人権センター教養講座「カリンバ教室」を始めます

センターでは町の教養講座として全町民対象の「カリンバ教室」を始めます。

- 開講日 毎月第3土曜日 午後2時30分から4時頃まで
- 会場 日南町人権センター(日南町三栄)
- お申込み 日南町人権センター(Tel 82-0076)までご連絡ください。まずは体験のみで構いません。お気軽にお越しください。

★「カリンバ」はアフリカの伝統的民族楽器です。シンプルながら美しい音色です。

